

東京の下町、墨田にカナメの工場はある。  
職人の手によって一枚一枚丁寧にハンドメイドで色鮮やかに染め上げていく、植物タンニンなめし革。  
顔料を一切使用せず、使い込む程に馴染んでいく  
レザー作りへの情熱を伺った。

**TUF**

TOKYO LEATHER FAIR

Interview,8

株式会社カナメ 佐久間 勇

植物タンニンなめしを専門に、東京では数少ない牛を扱っているタンナーですね。国内生産ならではの特徴を教えてくださいか？

自社で工場を持っているので、スピーディーにお客様のニーズに合う革を提供することができます。午前中に打ち合わせをして、午後にサンプルを持っていくことだって可能ですよ。そこが国内生産の強みですね。

そうですね。スピード感があって品質も他国と変わらないのであれば、もっと国内産に注目されるべきですね。

日本で作られる革も、イタリアを中心とした革の先進国で作られる革と同じ品質を持っています。日本の技術は海外と変わらない。同様の革が日本でも提供できるという事実を伝えていくことが大切じゃないでしょうか。

御社がとくに伝えたいことは何でしょうか？

革づくりにはストーリーがあるという事です。  
若い人にも知ってほしいですね。

今後、海外生産の革に負けない為にはどうすれば良いと思いますか？

海外に負けないくらいの情報を持つことです。それと、やっぱりスピード感。サンプルの色味をパソコン上で見て分かりますか？質感だって触ってみないと分からない。実際に自分の目で見て、触れてみないと良いかどうかは分からないですよ。アナログな手法ですが、五感で感じて頂くことを大切にしています。お客様に寄り添って、良いものを作る。それが1番です。

